

蟬

SEMIGAKU

學

加藤正世の博物誌

平成23年度「学芸員専修コース」共同企画展示
平成23年11月22日—平成24年3月25日

東京大学総合研究博物館



Tibicen japonicus (Kato, 1925)
エゾゼミ



蟬

平成23年度「学芸員専修コース」共同企画展示

加藤正世の博物誌



加藤コレクション

加藤コレクションは、2010年に東京大学総合研究博物館へ寄贈された新規収蔵のコレクションである。セミ博士と呼ばれた加藤正世博士(1898-1967)が生前に集めた、ホロタイプ標本400点を含む約5万点の昆虫標本と文献類からなる貴重な資料群である。標本の中には、戦前から戦後にかけての東京近郊で採集された種が数多く含まれ、当時の関東平野の昆虫相を知る上でも非常に重要な資料といえる。

この展示では、昆虫研究と普及教育の両面に力を注いだ加藤正世博士の蟬學の世界に触れ、同時に加藤コレクションの持つ昭和初期の昆虫学の雰囲気を感じてほしい。

學

昆虫学者としての加藤正世



加藤は大学や公立研究機関に所属した学者ではなく、在野にあってセミ類の研究を続けながら、多くの論文や著作を世に出した昆虫学者である。セミやツノゼミ、アワフキムシなどの半翅目を中心に、約400もの新種、新亜種、変種などを記載する一方で、生態的な調査も精力的に行い、それらの成果を「Fauna Japonica Cicadidae」や「蟬の生物学」としてまとめた。1958年にはこの「蟬の生物学」により、北海道大学から理学博士の学位を授与されている。

アマチュア昆虫界の礎を築いた加藤正世

加藤は研究を続ける傍ら、石神井の自宅に蟬類博物館を開館し、趣味の昆虫採集を通じた自然誌学の普及にも力を注いだ。また「昆蟲趣味の会」を立ち上げて日本初のアマチュア向けの昆虫雑誌「昆蟲界」を発行し、多くの昆虫少年・青年たちに発表の場を提供した。

後の日本昆虫界をリードする黒沢良彦、河野光子、中根猛彦、石原保、岡野磨磋郎、小島圭三、井上寛、長谷川仁、岡田節人、白水隆などの昆虫学者は、この「昆蟲趣味の会」や雑誌「昆蟲界」の中から育ってきたといっても過言ではない。



東京大学総合研究博物館

東京都文京区本郷7-3-1(東京大学本郷キャンパス内)

開館時間=10時~17時(ただし入場は16時30分まで)

休館日=土曜・日曜・祝日・12月28日~1月4日・1月27日/1月28日以降は月曜・2月25・26日

入館料=無料/ハローダイヤル=03 5777 8600

アクセス=都営大江戸線「本郷三丁目」駅より徒歩3分/東京メトロ丸ノ内線「本郷三丁目」駅より徒歩6分

The University Museum, The University of Tokyo <http://www.um.u-tokyo.ac.jp>

SEMIGAKU

平成23年度「学芸員専修コース」

展示制作: 相澤 毅、大島康宏、工藤 悠、慶野結香、四方圭一郎、染井千佳、高木愛子、武浪秀子、中嶋浩子、原 朋子、藤井千春、三村麻子、山田真理子、渡邊淳子

制作指揮: 矢後勝也、佐々木猛智 総合講評: 西野嘉章(東京大学総合研究博物館館長)

講師: 大野正男、林 正美、遠藤秀紀、関岡裕之、松本文夫、池田 博、宮本英昭、松原 始

制作補助・協力: 中坪啓人、須田孫七、小沢英之、粟野雄大